



深まる秋 読書の秋

部長 勝木 茂

岩瀬キャンパスの銀杏の葉も少しずつ色づき、秋空が高く澄み渡る季節となりました。

秋は、読書やスポーツをはじめ様々な学習に最適の季節です。心も身体ものびのびと豊かに育ってほしいものです。

さて、初等部ではどのような読書の授業や読書活動が行われているのでしょうか。今回、読書の授業を担当している小倉玲子教諭より、「深まる秋」「読書の授業風景から」というタイトルで、初等部の最近の様子について皆様にお伝えいたします。



読書の授業では、毎年この時期はいつも以上にジャンルの幅を広げて本に親しむことを薦めています。

想像力を豊かに高めてくれる本に、お話(物語)の世界を想像して楽しむことを求め、手にすることも多くなりがちですが、一般的に、低学年に向けた読み聞かせや本の紹介では、3冊のうち1冊は意識的に自然・科学の分野の本を入れるように言われています。ですから、この比を逆にして、写真で紹介された虫や動物の本を意図的に読み聞かせに取り入れています。

大抵大型本で紹介していますので、ひっくり返った足がいっぱいのダンゴムシの姿や原寸大のゾウの鼻の穴のページなど、時々悲鳴にも似た声にならない声も聞こえてきますが、いつの間にか食い入るように顔を近づけて見たり聞いたりしている子どもたちの姿があります。まさに好奇心の扉が開く瞬間を迎えているのだと思います。

また、食欲の秋からのアプローチとして、料理に関する本も紹介しています。秋の味覚の食べ物の本や、読み親しんできた絵本に登場する料理を実際に作ってみようという紹介する本(『絵本『からすのパンやさん』パンをつくろう!』や「夢の名作レシピ」シリーズなど)も子どもたちに紹介しましたところ、週末に家族といっしょに作りたいと張り切ってその本を借りていく子もいました。

他にも、中学年の子どもたちには、芸術の秋からのアプローチとして、絵画や画家の本を紹介し、子ども向けにわかりやすく名画を紹介し、画家の人物像や技法にも迫る「はじめてであらう絵画の本」シリーズから始め、本物に心を寄せて読み聞かせています。

そして、高学年の子どもたちには、「秋の夜長はミステリーを！」ということで、名だたる名探偵や怪盗を世に送り出した4人のミステリー作家を紹介し、思い思いに推理しながら自分の気になる作品を読み進めています。

一昨年拡大・拡充された初等部図書館がその役割を果たし、子どもたちの知的好奇心を刺激し、心の琴線に触れる実り多い時がこのまま続くことを期待しています。



保護者の皆様の中にも、子どもの頃に読まれた思い出の本がお有りではないでしょうか。たまには、お子さんと本の話などされるのもよいと思います。お子さんに本を読んであげたり、同じ本を読んだり、自分の思い出の本を紹介してあげたり、方法はいくつもあると思います。